

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400495		
法人名	医療法人宏友会		
事業所名	ふれあいハウス		
所在地	愛知県半田市乙川吉野町67		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成22年4月6日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ささいな事でも、その人の残された能力を低下させないよう維持できるように取り組んでいる。人生の最後まで安心して寄り添わせていただいている。
(機能訓練を定期的に受けることができる)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成22年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣のショッピングセンターへは、日常的に散歩を兼ねて買物に行き、そこで知り合いの人や近所の人と会い話している。地域のボランティアの手品、南京玉すだれ、踊りなど多彩に受け入れており、1Fがデイサービスのため友人との行き来もある。デイサービスへソフトクリームを食べに行くことを楽しみにしている利用者もいる。このように地域社会との交流が日々自然体で、できている。また、デイサービスでリハビリを受けることができ、身体維持に努めている。デイサービスの機械浴も利用することができる。家族会が半年に1度行なわれ、一緒に手作りの食事をしながら交流を深めている。毎日来訪する家族もあり、職員との連携はよく取れている。職員の研修や勉強会も積極的に行なわれ、会議でも活発な意見交換が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆のよく見える場所に理念を掲示し、常に意識して確認出来るようにしている。	「地域密着型サービス」の意義を大切に、理念を日常的に確認できる場所に掲示し、全職員が日々認識している。ケアプランの援助の方針や目標に意識して理念を取り込むようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方をボランティアとして受け入れたら、運営推進会議のメンバーとして出席していただいている。	地域のボランティアとして手品、南京玉すだれ、踊りなどを行なっている。また、近隣の小学生が「おとしよりのふれあい学習」として来訪している。1Fがデイサービスのため、利用者の友人が来た時にグループホームへ遊びに来たり、グループホームの利用者が1Fへ会いに行くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の方を通して、認知症の方へのかかわり方について話し合ったり、相談にのって解決への糸口を見つけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催して意見をしんしに受け止め、スタッフ全員で情報共有し、日々の介護に活かす様にしている。	運営推進会議を通してホームの実状や生活の様子を報告するだけに留まらず、積極的に質疑を行い今後の運営の指針になるよう前向きに取り組んでいる。ホームでどのようなサービスをしているのかわかってもらえるように、認知症の研修報告をしたり、看取りについて話したりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的市役所の担当課へ訪問。運営推進会議へ参加していただいている。	運営推進会議に毎回市役所の職員が交代で出席している。また、月末には市役所の介護保険課へホームの介護度の報告をしたり、パンフレットを置いてきたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の開催により、身体拘束に対する理解を深めるよう努力している。	知多中南部地区での勉強会があり、職員が交代で出席している。その中に身体拘束についての課題もある。去年、厚生労働省東海局からスピーチロックについての視察調査が入り、職員でそのことについて話し合った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開いて理解を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会のある都度参加して、勉強した内容を復命し知識の共有をはかっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	資料等を用い、わかりやすく説明させていただきようとしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	きめ細かに聞く機会(家族会・運営推進会議への参加)を設けている。	運営推進会議や半年に1度の家族会に参加してもらい意見や要望を聞くようにしている。そこで利用者、家族、職員とで一緒に食事をしたいという要望があり、手作りの食事会を行なった。また、出来立てのご飯を食べたいという意見もありご飯をグループホームで炊くようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、職員の意見・提案を聞き、効果的な運営が出来るよう心がけている。	ハウス会議、ふれあい会議をそれぞれ1ヶ月に1回開催し、管理者は運営報告や経営報告も行なっている。それぞれ職員は各自の目標設定をして発表し、振り返りもして積極的に会議に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にチェックリストを用い、各自目標を設定したことについて自己評価を行った上で、面接等を通して個々の状況について把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会あるごとに研修への参加を設け、内容の復命により全員に研修内容の理解が出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内の他のグループホーム職員と定期的に意見交換をもつようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族を含め、入居前にかかわっていたサービス提供者からも情報を把握し、入居者の一面的なとらえ方にならないようにして、スタッフ間の情報共有の徹底に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話やすい雰囲気心を心がけ、利用にあたっての不安や要望について疑問のないよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態をきちんと把握した上で、何が今必要なのか検討し努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の行える事をささいなことであっても見極め、行える部分をいかせる努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期的に面会に来ていただきながら、職員を含めて今の状況について説明させていただき、理解をお互い深める努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設しているデイサービスを利用されている昔からの友人や馴染みの方との交流をはかっている。	デイサービスからグループホームへ来た利用者でデイサービスの友人と行き来している人もいる。また、近所の方が面会に来る事もある。墓参りや馴染みの美容院へは家族が連れて行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら声かけし、席の配慮をしながら同じ生活している隣人という意識を持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で様子を伺ったり訪問し、相談に必要な時のよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から意向を把握するように努め、定期的なカンファレンスで職員間で確認しあい努めている。	本人・家族の意向を会議やカンファレンスで確認している。又、声かけした際の反応・表情を見て対応がされていると同時に、食事やオムツの状況等を職員が判別できるような工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や本人を取り巻いていた関係者から情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がよく本人を観察し、本人の生活リズムや能力を把握し、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち制を敷き、必要時カンファレンスを開いた上で現状について全員の共通理解に努めている。	介護計画は6ヶ月に一度の作成であるが、随時話し合いが行われ、必要に応じて見直しがされている。カンファレンスを開いて話し合い、意向を確認し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的カンファレンスを開いて話し合いをして、日々のケアに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の声をよく聞くようにし、ニーズの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についてあまり把握できていないと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態の把握に医療従事者を含めしっかり行った上で、必要な医療の提供をし、家族にもその都度説明させていただいている。	基本的には入所時、協力医に変えるが、本人や家族の希望があればかかりつけ医の継続受診も可能である。又、受診に於ける家族の同行が困難な場合は職員が付き添い、家族への報告が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護職が相談にのれる状況にあり、支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に医療従事者と相互に連携が取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては家族会・運営推進会議等において、ホームの取り組みを理解していただくよう努め、重度化されつつある場合、その都度個々に医師を含め説明させていただいている。	看取りについては入所時に説明がなされ、書類も整えられていて、家族の希望があれば出来る範囲で行う体制が出来ている。重度化した場合も、折に触れ家族と相談する様心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練・勉強会をし、地域で行われている救急法講習への参加も含め、どのような時にも対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行っている。	年に一度、消防署が立ち合い、大がかりな防災訓練が行われており、利用者の階下への降ろし方等、質問・回答を含めた消防署員による講義がある。夜間設定の訓練もあり、不定期の訓練では通報の仕方や消火器の取り扱い、AEDの使用方の訓練も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お互いに注意しあいながら、対応には配慮している。	利用者の人格を尊重し、日頃から、自然体で、失礼にならない様な声かけや話し方を心掛けている。トイレ誘導も小声でさり気なく声かけをすると共にトイレ使用中も必ずドアを閉める様に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく時間がかかっても本人の言いたいこと、訴えたいことを聞くように努めている。(表情からも伺うようにしている。)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大筋の1日の流れは出来ているので、その流れに沿って…が原則であるが1人1人のその時の状況に応じてはいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に確認しながら季節に応じた服装や、おしゃれが出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作り、お楽しみ献立などの工夫をしながら、“食”が楽しんでいただける努力をするとともに利用者の出来る部分でお手伝いをしていただいている。	献立は管理栄養士が立てるが、メニューを見て一品追加したり、炊いたご飯の残りをチャーハンやお粥に利用する等の工夫をしている。不定期におやつでホットケーキやたこ焼きを作ることもある。又、利用者の出来るお米とぎ、包丁で刻む、お盆を拭く等の部分部分のお手伝いもしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取状態を1人1人把握した上で、必要時水分出納チェックや食事形態を変えて、必要な量が確保できる支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声をかけ合って1人1人のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄状態を1人1人把握した上で介助するよう行っている。	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを把握した上でのトイレ誘導・介助が行われている。利用者によっては夜間と昼間でオムツと紙パンツを使い分ける支援もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認とともに、定期的な排便がスムーズに行えるよう努力出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	けして無理強いはしていないが、(その日その時の状況によって違いはあるが)大筋の入浴日や時間を決めている。	車椅子の利用者が多いこともあり、利便性という点でも機械浴の出来る1Fのデイサービスの風呂を一日おきに利用している。入浴拒否の利用者はいない。	2F・3Fにそれぞれ浴室があるので、今後グループホーム内での入浴という形も検討されているとのことなので、是非実行に向けての取り組みを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みの夜具を持って来て頂いたり、休める環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職場内の看護職や法人内の薬剤師の協力も得ながら、薬の管理をきちんとし“薬”に対しての理解を職員がきちんとできるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態やニーズをきちんと把握した上で、“個”に目を向ける様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出勤状況によりその日の希望に添えないこともあるが、天気や季候の状況で定期的に外出できるよう心がけている。	インフルエンザの流行や気候的な理由で最近では外出の機会が少ないが、気候・天気の良い日には隣のスーパーに買い物に出かけ、中の喫茶店に寄ったり、近所に新しく出来た回転寿司等へも出かける支援が行われている。回転寿司では普段、食の細い利用者が食欲旺盛になったりする楽しい光景も見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お1人お1人外出時できる範囲でお金をスタッフとともに持っただき支払いするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は各自の居室にあるものが自由に使用できるので職員が必要時見守ってかけたり、手紙も自由に書いて投函できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事にあわせての雰囲気作りに努めている。	リビングには季節に合わせた生け花や手作りの壁掛け・風船を利用して型をとったお面や書道の作品等が飾られていて、居心地の良い空間作りに工夫がされている。又、2Fのベランダには花壇も作られていて季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげるような空間になるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら自由に本人のお気に入りを持参していただいて、部屋のレイアウトを本人と相談しながら配置したり、使いやすいようにしている。	一人一人の居室がゆったりと作られていて、その中に家族の写真や趣味の書道・編み物等手作りの作品が飾られており、それぞれが居心地良く過ごせる様な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全をまず第一に考えて、整理整頓に努め、職員が必ず見守れる態勢にした上で、過剰介護にならないよう努めている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	隣にあるショッピングセンターへ散歩を兼ねて買物に行き、そこで知り合いの人や近隣の人と会うと挨拶や話しをしている。地域のボランティアの受け入れや小学生の「おとしよりとのふれあい」の学習の受け入れなど行なっている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議には市の介護保険課の職員や福祉センター職員、家族、ホームの職員などが出席している。時には警察署の職員も参加して事故についての報告なども行なっている。「地域に開かれた施設にするにはどうしたらよいか？」などについても話し合っている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市の介護保険課の職員が交代で運営推進会議に出席しているので連携は取れている。また、月末にはホームの空き状況や介護度の報告などに出向いている。その折にはホームのパンフレットを置いてきている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族会を半年に1度設けている。そのときには家族、利用者、職員とで一緒に食事を作り、食べている。家族から利用者の細かな生活歴を聞いたり、ホームでの様子を話したり、また、家族からの意見も聞いたりしてより理解を深められる関係ができています。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体が医療法人のグループホームで、1Fのデイサービスとの連携は良好で、デイサービスへ来た人がグループホームへ遊びに来たり、グループホームの利用者が友人に会いに1Fに行く人もいます。リハビリやお風呂も利用でき、利用者に多様なサービスを提供している。家族の来訪も多く、意見や要望は言いやすい雰囲気でも家族も安心してきている。また、地域のボランティアやヘルパー養成講座の実習生の受け入れも行なっており、地域との関わりも深まってきている。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。